平成 28 年度事業報告書

学校法人　湘南ふれあい学園

平成28年度
湘南医療大学の目指す教育

平成28年4月1日

理　念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」
その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。
わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。
1やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
2生命（いのち）を全うしていただくための知識・技術の習得
3その人らしさと個別性を尊重し敬愛す
わたしたちは、理念の実践者になります。

保健医療学部のめざす教育

1. 保健医療学部は、保健医療に関する高度な専門知識と技術を教育する。

2. 保健医療学部は、他職種と連係し、チーム医療を推進する事により、人々の多様なニーズに適切に応えることのできる豊かな人間性を備えた人材を養成する。

3. 保健医療学部は、主体的に行動し、社会の変化に対応し、地域社会に貢献するための研究活動ができる人材を養成する。

基 本 方 針

1. 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します

2. 私たちは、学生に最適な教育サービスをタイムリーに提供します

3. 私たちは、やさしさ、おもいやりと気配りのある態度で仕事をします

全職員参加

1. PDC活動

2. 業務改善（教育課程・シラバス・学生便覧・教授方法）

3. 全体研修会（FD活動・SD活動）

4. 朝礼の五訓（全体朝礼と毎日の朝礼）

5. 6S活動

全部門の整備・充実

Ⅰ－1. 理念の実践
・学生も教員も、理念の実践者となる。

2. ディプロマポリシーに沿った教育の実践
・湘南医療大学のディプロマポリシー
①看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身に着け、実践することができる。
②科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。
③相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。
④保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連係し、人々の健康に寄与することができる。
⑤幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。

3. カリキュラムポリシーに沿った教育の実践
①教育理念の醸成、倫理的感性の涵養、豊かな人間性、健康、人間と社会、学際的思考を学ぶ科目
②専門基礎、医学を修得する科目
③専門的な知識・技術を修得する科目
④実践的、応用力を養う科目

4. 入学者選抜
・アドミッションポリシーに沿った学生の受入れ。

5. 研究活動
・教員は、大学のミッションを考えた研究活動をする。

Ⅱ. 私立大学等改革総合支援事業の配点の評価

Ⅲ. チーム医療の推進

Ⅳ. 安全管理体制

平成28年度
茅ヶ崎看護専門学校の目指すもの

平成28年4月1日

理　念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」
その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。
わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。
1やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
2生命(いのち)を全うしていただくための知識・技術の習得
3その人らしさと個別性を尊重し敬愛す
わたしたちは、理念の実践者になります。

本校のめざす教育

1．やさしさと思いやりの心をもち、相手の気持ちや痛みに寄り添うことができる

2．医療の知識と技術に基づいた援助ができる

3．専門職業人として、生涯、看護の向上を目指し学修する態度をもつ

基 本 方 針

1．私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します

2．私たちは、学生に最適な教育サービスをタイムリーに提供します

3．私たちは、やさしさ、おもいやりと気配りのある態度で仕事をします

全職員参加

1．PDC活動
2．業務改善（教育課程・シラバス・学生便覧・教授方法）
3．全体研修会（FD活動・SD活動）
4．朝礼の五訓（全体朝礼と毎日の朝礼）
5．6S活動

全部門の整備・充実

Ⅰ－1．理念の実践
学生も教職員も、理念の実践者となる。

2．卒業認定・専門士授与の方針
①修業年限以上在籍し、看護学科所定の単位数を修得するとともに、ふれあいグループの理念、職業倫理に則った思いやりをもち、尊厳するべき統合された生活体として対象をとらえることができ、対象の持つ様々な思いや痛みに寄り添い、安寧な生活が送れるよう科学的な根拠に基づいた援助の実践を身に付けた学生に対して卒業を認定する。
②専門士の称号を授与する。

3．看護師国家試験　合格のための取り組み
看護師国家試験の合格を期するために以下の取り組みを実施する。
①基礎科目から小テストを実施することで学習習慣を身に付ける。
低学年模試を実施する。
②必修問題、一般状況問題の対策を開始し、知識の定着を図る。
③毎月複数回の過去問や模試を実施し、どんな問題が出題されても怯まない知識力・精神力を身につける。
④不安なこと、わからないことを次に残さないよう、個人面談、学年縦割り制度を利用した手厚い学生サポート体制を整える。

4．入学者選抜
看護学を真摯に学び、専門職業人としての資質を修得する学習者としての素質を持ち、国家試験に合格することをひとつの目標とした基礎的な能力を持つ人

Ⅱ　自己点検・評価
本校は、教育の質の向上に努めるために、理念・目標に照らして自らの教育活動の状況について自己点検し、優れている点や改善をする点等自己評価を行う。

Ⅲ　チーム医療

Ⅳ　安全管理体制

平成28年度
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の目指すもの

平成28年4月1日

理　念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」
その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。
わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。
1やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
2生命（いのち）を全うしていただくための知識・技術の習得
3その人らしさと個別性を尊重し敬愛す

本校のめざす教育

1. すべての人間に対して深い愛情と思いやりをもち、調和のとれた社会人としての成長を図る
2. 医療・福祉の対象である人間や地域社会を総合的に捉え、対象に応じた対応を主体的に実践する能力を養う
3. 変動する社会情勢を認識し、乳幼児から高齢者まで幅広い医療に対応できる能力を養う
4. 社会制度の 中で、専門職として果たすべき役割を考え、その役割を遂行する基礎的な能力を養う
5. 知識・技術の向上を目指す研究的態度を養う

基 本 方 針

1. 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します
2. 私たちは、学生に最適な教育サービスをタイムリーに提供します
3. 私たちは、やさしさ、おもいやりと気配りのある態度で仕事をします

全職員参加

1. PDC活動
2. 業務改善（教育課程・シラバス・学生便覧・教授方法）
3. 全体研修会（FD活動・SD活動）
4. 朝礼の五訓（全体朝礼と毎日の朝礼）
5. 6S活動

全部門の整備・充実

Ⅰ－1. 理念の実践
・学生も教職員も、理念の実践者となる。

2. 卒業認定・高度専門士（専門士）授与の方針
・修業年限以上在籍し、各学科所定の単位数を修得するとともに、セラピストとしての素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
・理学療法・作業療法学科では4年制課程であり、総教育時間が3800時間以上であることから、高度専門士としての称号も授与する。但し、言語聴覚学科は2年制課程のため、専門士の称号を授与する。

3. カリキュラムポリシー
①理学・作業療法士養成校設置基準及び言語聴覚士養成校設置基準に倣い、各セラピストに求められる必要な医療知識・技術を学ぶ。
②学んだ知識・技術を集約させ、臨床実習に役立て、即戦力となるセラピストを目指す。

4. 入学者選抜
①医療職として働く強い覚悟を持つとともに、目標に向かって学んでいく意欲がある人
②課題解決にむけて、個人だけでなく、他者から意見を踏まえて、考えをまとめる力のある人
③基本的生活習慣や学習習慣が身についている人

Ⅱ　自己点検・評価
本校は、教育の質の向上に努めるために、理念・目標に照らして自らの教育活動の状況について自己点検し、優れている点や改善をする点等自己評価を行う。

Ⅲ　チーム医療

Ⅳ　安全管理体制

平成28年度
下田看護専門学校の目指すもの

平成28年4月1日

理　念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」
その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。
わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。
1やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
2生命（いのち）を全うしていただくための知識・技術の習得
3その人らしさと個別性を尊重し敬愛す
わたしたちは、理念の実践者になります。

本校のめざす教育

1．やさしさと思いやりの心をもち、相手の気持ちや痛みに寄り添うことができる

2．医療の知識と技術に基づいた援助ができる

3．専門職業人として、生涯、看護の向上を目指し学修する態度をもつ

基 本 方 針

1．私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します

2．私たちは、学生に最適な教育サービスをタイムリーに提供します

3．私たちは、やさしさ、おもいやりと気配りのある態度で仕事をします

全職員参加

1．PDC活動
2．業務改善（教育課程・シラバス・学生便覧・教授方法）
3．全体研修会（FD活動・SD活動）
4．朝礼の五訓（全体朝礼と毎日の朝礼）
5．6S活動

全部門の整備・充実

Ⅰ－1．理念の実践
学生も教職員も、理念の実践者となる。

2．卒業認定・専門士授与の方針
①修業年限以上在籍し、看護学科所定の単位数を修得するとともに、ふれあいグループの理念を基に、人間および生命を尊重できる豊かな人間性を養い、英知と実践力を備えた看護の専門職業人としての素養を身に付けた学生に対して卒業を認定する。
②専門士の称号を授与する。

3．看護師国家試験　合格のための取り組み
看護師国家試験の合格を期するために以下の取り組みを実施する。
①基礎科目から小テストを実施することで学習習慣を身に付ける。
低学年模試を実施する。
②必修問題、一般状況問題の対策を開始し、知識の定着を図る。
③毎月複数回の過去問や模試を実施し、どんな問題が出題されても怯まない知識力・精神力を身につける。
④近年出題が増えている社会情勢（国家試験に出題が予想される）の情報を新聞等から取り出し、小テストを作成し、実施する。
⑤不安なこと、わからないことを次に残さないよう、個人面談、学年縦割り制度を利用した手厚い学生サポート体制を整える。

4．入学者選抜
看護学を真摯に学び、専門職業人としての資質を修得する学習者としての素質を持ち、国家試験に合格することをひとつの目標とした基礎的な能力を持つ人

Ⅱ　自己点検・評価
本校は、教育の質の向上に努めるために、理念・目標に照らして自らの教育活動の状況について自己点検し、優れている点や改善をする点等自己評価を行う。

Ⅲ　チーム医療

Ⅳ　安全管理体制

平成28年度
医療ビジネス観光情報専門学校の目指すもの

平成28年4月1日

理　念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」
その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。
わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。
1やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
2生命（いのち）を全うしていただくための知識・技術の習得
3その人らしさと個別性を尊重し敬愛す
わたしたちは、理念の実践者になります。

本校のめざす教育

学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、医療、観光に関わるビジネス並びに情報技術に関する専門知識及び技術を習得させ、社会人として必要な教養の向上を図り、地域社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。

基 本 方 針

1. 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します

2. 私たちは、学生に最適な教育サービスをタイムリーに提供します

3. 私たちは、やさしさ、おもいやりと気配りのある態度で仕事をします

全職員参加

1. PDC活動

2. 業務改善（教育課程・シラバス・学生便覧・教授方法）

3. 全体研修会（FD活動・SD活動）

4. 朝礼の五訓（全体朝礼と毎日の朝礼）

5. 6S活動

全部門の整備・充実

Ⅰ－1. 理念の実践
・学生も教職員も、理念の実践者となる。

2. 卒業認定・専門士授与の方針
・修業年限以上在籍し、各学科所定の単位数を修得するとともに、医療・観光・情報のスペシャリストとしての素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、専門士としての称号も授与する。

3. カリキュラムポリシー
・専修学校設置基準に倣い、各専門職に求められる必要な知識・技術を学ぶ。
・学んだ知識・技術を実習などの実践に役立て、即戦力となる専門職技術者を目指す。
・キャリア教育により社会人としてのメンタリティを強化する。
・国家試験、検定試験等、多くの資格を取得する。

4. 入学者選抜
・最後まで粘り強く、学修に励み、必ず卒業するという覚悟を持つ人
・目標に向かって学んでいく意欲がある人
・他者と協力して、課題を解決することが出来る人
・基本的生活習慣が身についている人
・グループに貢献する意欲がある人

Ⅱ　自己点検・評価
・本校は、教育の質の向上に努めるために、理念・目標に照らして自らの教育活動の状況について自己点検し、優れている点や改善をする点等自己評価を行う。

Ⅲ　チーム医療

Ⅳ　安全管理体制

平成28年度
みどり幼稚園の目指すもの

平成28年4月1日

理　念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」
その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。
わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。
1やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
2生命（いのち）を全うしていただくための知識・技術の習得
3その人らしさと個別性を尊重し敬愛す
わたしたちは、理念の実践者になります。

本園のめざす教育

学校教育法第22条及び第23条に基づき幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

年少：　園生活に慣れ、保育者や友達と関わりながら喜んで遊ぶ。
年中：　集団の中で一人一人が自己を発揮できるようになる。
年長：　様々な経験や活動を通して、仲間の大切さを感じ取ったりする。

基 本 方 針

1．私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します

2．私たちは、園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します

3．私たちは、やさしさ、おもいやりと気配りのある態度で仕事をします

全職員参加

1．PDC活動
2．業務改善
3．全体研修会（FD活動・SD活動）
4．朝礼の五訓（全体朝礼と毎日の朝礼）
5．6S活動

全部門の整備・充実

Ⅰ-1　理念の実践
・理念に基づき、幼稚園の教育方針を踏まえた保育活動、行事を実践し、充実させることができる。

2　教育の実践
・集団生活に慣れることができる。
・集団生活のルールを身につけることができる。
（順番を待つ・並ぶ・話を聞く・自分の思いや考えが言える・友だちと遊ぶなど）
・運動あそびを経験することができる。（走る・跳ぶ・投げるなどが出来るようになる）
・技術を学ぶことができる。（紙を折る・のりを使う・はさみで切るなど）
・他者と協力するして物事ができる。（運動会・発表会・作品展など）
・友だちを作ることができる。（異年齢の交流も行う）
・やる気を出して、様々な活動に興味や関心を持ち、活動することができる。
・いろいろな体験や経験を通して、得意・不得意を知り、最後までやりぬく力を育てることができる。
・正しい食習慣を身に付けることができる。
・園の特色である体操、乾布摩擦、英語活動を継続的に活動することができる。

3　園児受け入れの方針
・明るく、元気な子ども
・基本的生活習慣が身についている子ども（挨拶・食事・排泄など）
・幼稚園の教育方針を保護者が理解し（関わりが困難な子供を含め）、保育活動や行事などに協力が可能であること。

4　グループとの連携活動
・教職員は全体研修会に参加して自己研鑽し、保育指導に活かす。
・ふれあいグループの各校・施設と連携し、実習生の受け入れ、子育て支援活動、及びボランティア活動に協力する。

5　安全管理体制
・危機管理対策として避難訓練を継続的に行い、園児達の安全確保に繋げる。

法人の概要

【沿　革】

年　月		沿革
平成 6 年	1 月	準学校法人　湘南ふれあい学園設置
	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校創立
平成 10 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立
平成 12 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置
平成 13 年	1 月	学校法人横浜アカデミーより 2 幼稚園、2 専門学校、1 予備校を継承し、学校法人へ変更
平成 14 年	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置
平成 16 年	4 月	下田看護専門学校創立 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学学科設置
平成 17 年	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更
平成 18 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校　社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更 ふれあい横浜専門学校　美容学科入学定員変更 総合電子専門学校　学科再編（設置及び変更）
平成 20 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校　理学療法学科入学定員変更
平成 21 年	4 月	総合電子専門学校　学科再編（名称変更等）
平成 22 年	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更
平成 23 年	4 月	ふれあい横浜専門学校　観光学科入学定員変更 総合電子専門学校　研究科設置
平成 24 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校　言語聴覚学科（2 年制）設置及び作業療法学科入学定員変更 総合電子専門学校　医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更
	6 月	湘南医療大学（仮称）大学設立準備室設置
平成 26 年	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校　南湖校舎移転 湘南医療大学（仮称）設置認可申請書提出
	4 月	学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転 総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編
	10 月	湘南医療大学　設置認可 学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 27 年	4 月	湘南医療大学開学 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転
平成 28 年	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置

【設置する学校】

学校名	学部・学科・専攻等（入学定員）		開学・開校年度
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科（80）	平成 27 年度
		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）（40）	
		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）（40）	
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科（80）		平成 6 年度
茅ヶ崎ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校	理学療法学科（80）		平成 10 年度
	作業療法学科（20）		
	言語聴覚学科（35）		
	付帯教育事業	社会福祉専攻科（80）	
		介護福祉士実務者研修（30）	
下田看護専門学校	看護学科（40）		平成 16 年度
医療ﾋﾞｼﾞﾈｽ観光情報専門学校	医療ビジネス学科（20）		昭和 61 年度
	観光学科（40）		
	情報システム学科（40）		
みどり幼稚園	幼稚園（200）		昭和 24 年度

【学生数】 平成28年5月1日現在　学生・園児数

[湘南医療大学]

		入学定員	収容定員	編入学定員	入学者数	平成 28 年度在籍者数（現員）				平成 28 年度卒業生
						1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
保健医療学部	看護学科	80	160	10	82	82	97	－	－	0
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科（理学療法学専攻）	40	80	0	43	43	43	－	－	0
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科（作業療法学専攻）	40	80	0	43	43	40	－	－	0

[茅ヶ崎看護専門学校]

	入学定員	収容定員	入学者数	平成 28 年度在籍者数（現員）			平成 28 年度卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	80	240	81	81	87	71	67

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

	入学定員	収容定員	入学者数	平成 28 年度在籍者数（現員）				平成 28 年度卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
理学療法学科	80	240	80	90	85	64	60	54
作業療法学科	20	80	24	23	19	15	15	15
言語聴覚学科	35	70	31	32	35			33
社会福祉専攻科 ※1	80	160	50	50	67			58
介護福祉士実務者研修 ※2	30	30	28	28 28				27

※1 社会福祉専攻科は 1 年 9 ヶ月の通信課程

※2 介護福祉士実務者研修は 6 ヶ月の通信課程

[下田看護専門学校]

	入学定員	収容定員	入学者数	平成 28 年度在籍者数（現員）			平成 28 年度卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	40	120	40	40	40	40	38

[医療ビジネス観光情報専門学校]

	入学定員	収容定員	入学者数	平成 28 年度在籍者数（現員）		平成 28 年度卒業生
				1 年生	2 年生	
医療ビジネス学科	20	40	10	10	16	16
観光学科	40	80	64	64	64	57
情報システム学科	40	80	46	47	47	44

[みどり幼稚園]

	定員	入園者数	平成 28 年度在籍者数（現員）			平成 28 年度卒園生
			年少	年中	年長	
年少	200	60	60	67	71	72
年中		7				
年長		0				

※年長　平成28年9月1日付け
転入園児　1名

【役員・教職員の人数】

役員

役員、評議員	定数	現員
理事	6～8	6
監事	2	2
評議員	13～17	13

理事会・評議員会開催状況

	開催回数
理事会	13 回
評議員会	13 回

教職員数

学校名	教員		職員 ※2
	本務 ※1	兼務	
湘南医療大学	43	87	15
茅ヶ崎看護専門学校	19	69	6
茅ヶ崎ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校	24	103	10
下田看護専門学校	12	37	5
医療ビジネス観光情報専門学校	10	41	4
みどり幼稚園	20	2	4
本部事務局	1	研修センター27	9

※1　本務には、非常勤教員も含みます。

※2　非常勤職員も含みます。

教員内訳

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保　健 医　療 学部	看護学科		2	9	1	5	0	1	0	4	0	1	3	20
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	理学療法学専攻	4	0	1	2	2	0	1	0	0	0	8	2
		作業療法学専攻	3	0	2	1	3	1	0	0	0	0	8	2
			9	9	4	8	5	2	1	4	0	1	19	24

２　事業の概要

(1)主な事業報告

①湘南医療大学

1　理念の実践
　全体研修、教授会、その他委員会等各種会議を通して、全教職員、学生に対して「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念を礎とする、思いやりのある教育活動を実践することを確認し、行動した。また、学生に対してもオリエンテーション等において、建学の理念の重要性を周知した。
2　教育活動の実践
　開学2年目である平成28年度においても、引き続き大学設置の趣旨、目的を全教職員で共有し、学生が健康で有意義な学生生活を送れるよう教育活動を推進した。第2期生として、看護学科82名、リハビリテーション学科86名の新入生を迎え入れ、2学年合計で看護学科179名、リハビリテーション学科169名となった。

　ア）学修指導
　学生は、オリエンテーションガイダンスを通じて、前年度に引き続き看護学科及びリハビリテーション学科の設置趣旨の理解促進、及び学生便覧、シラバス等により4年間にわたる系統的な学習計画の指導・説明を実施した。また、学生の学修時間の実態や学修行動の把握に関する調査アンケートを実施し、結果を集計・分析した。前年度と比較しても自己学習時間の向上が図られていることが分かった。また、学生便覧についても不備な事項を点検し、加筆修正を加えてた。シラバスについては、各単元内容に、事前学習・事後学習の項目を追加し、時間の目安も入れて学生に科目単元で行うべきことを詳細に記載して、改訂した。

　イ）入学前教育の実施
　入学に先立ちAO入試合格者は、平成28年11月、推薦入試合格者は平成29年1月からインターネット上で行うWEB課題形式で基礎学力・物理・化学・生物の課題を実施した。実施した結果については、教授会で報告し、入学生の学力課題に対する指導方針の取り組みの一助となった。

　ウ）オフィスアワーの実施
　学生が主体性を持って自主的に学習計画を進めるにあたり、オフィスアワーを設けている。ガイダンス、教員研究室前の掲示等を活用して、オフィスアワーの活用を促す取り組みを行い、授業、試験、及びレポート作成などの指導を行った。また、非常勤講師にも同様に教室等で質問を受け付けてもらうように依頼した。

　エ）国家試験対策の実施
　看護学科は２年生を対象に、９月及び２月に業者による国家試験模擬試験を実施した。リハビリテーション学科においては、１年生は週１回の自学自習の勉強会を行い、年度末には、１・２年生とも業者による国家試験対策模試を実施した。その結果を踏まえて、両学科とも弱点を補完する個別指導やモチベーションを上げていくための指導を行った。

3　ＦＤ活動
　教員の教育力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）の取組として、授業評価アンケートの他に、H28年度は、①大学の理念・教育目標・教育方法（対象：新任教員４月/５月）、②大学が実践するカリキュラムポリシー（６月）、③授業研究（授業法と授業力）（７月/８月）、④教員相互の授業参観の自己評価（９月/１０月）、⑤研究活動における不正行為防止に関する研修、コミュニケーション能力の向上（１１月/１２月）、⑥臨床実習指導方法に関する研修、教育方法の改善（１月/３月）を実施した。

　ア）学生による授業評価アンケート
　平成27年度に引き続き授業改善アンケートを実施した。結果は授業担当者にフィードバックされるとともに、反省、改善すべき事項は次年度の授業運営に活用している。

　イ）教員相互の授業参観
　効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、各学科前後期各２科目（看護学科：前期　老年看護学概論、成人看護方法論、後期　成人看護方法論Ⅱ、小児看護方法論Ⅰ。リハ学科：前期　日常生活支援論Ⅰ、神経系検査測定学、後期　運動学Ⅰ、日常生活活動学）を対象として授業参観を実施。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、自分の授業運営への活用や今後の授業参観の運営方法に関する改善点等について情報収集を行った。

　ウ）新任教員を対象とした教育方法に関する研修
　本学の教育方針、行動指針を理解し、教育目標の実現に向けて最大の効果を発揮することをねらいとして、新任教員を対象に教育方法に関する研修を４月/５月に実施した。

　エ）臨床実習指導方法に関する研修
　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、及び理学療法学専攻・作業療法学専攻の見学実習を中心に実習先指導者とともに、学生に対する実習指導方法の説明、実習指導に必要な注意事項などを共通認識をもって研修を実施した。

4　私立大学等改革総合支援事業
　本学は、より良い教育・より質の高い教育を目標を達成するためにの指針として、「私立大学等改革総合支援事業」を重視し、評価項目に照らし合わせて本学の大学教育の質的転換を図っている。平成28年度は、教育の質の向上に関するPDCAサイクルの確立として、シラバスの改善を図り、準備学習に必要な時間を明記した。また、学修の到達目標も総点検し、学生がより理解できるようにした。また、履修系統図も作施し、科目区分間、授業科目間の関係性や配当年次等をわかりやすく示した。GPAについては、奨学金受給資格の目安として活用するにとどまっている。今年度も、大学運営管理会議において経常的に再確認し、必要課題に取り組むこととしている。

5　学生募集活動
　学生募集については、計画的広報活動のもと、看護学科については、428名の志願者に対して、アドミッションポリシーに基づく選考の結果、102名の入学者（定員超過率1.28）であった。また、リハビリテーション学科は397名の志願者に対して、選考の結果、88名の入学者（定員超過率1.1）であった。

6　地域交流活動
　ア）横浜市の主催である大学・都市パートナーシップ協議会に参加。ヨコハマ大学まつりにおいて、
　　①「認知症～家族は早期発見の名医」（看護学科山本教授）
　　②「運動中のからだの不思議を科学する」（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科櫻井准教授）
　が本学の体験授業として提供した。

　イ）戸塚区地域振興課及び青少年指導員協議会と連携し、「戸塚区内中学生対象大学体験」を実施、看護体験、リハビリテーション体験を実施した。また、戸塚区こども家庭支援課及び戸塚区内の中学校からの要請を受け、「戸塚区中学校職業体験」を実施、戸塚区内の2中学校の生徒を受入、看護、リハビリテーションの仕事内容や方法について講義を行い、その後、隣接のふれあい東戸塚ホスピタルで職業体験を実施した。

　ウ）公開講座(年5回実施）実施した。①「楽しく学ぶ認知症予防」（看護学科上野教授）、②「「耳」よりな話」（喜多村副学長）、③「姿勢と健康の関係～「良い姿勢」って何？」（理学療法学専攻櫻井准教授）、④「脳を活かそう～認知機能検査を体験してみよう」（作業療法学専攻鈴木准教授）、⑤「なぜ怖い？スポーツによる脳しんとう」（片山副学長兼学部長）

7　湘南医療大学大学院保健医療学研究科設置準備
平成31年4月開設目標である「湘南医療大学大学院」は、当該設置準備室において、大学院の設置基本構想の策定（名称、設置趣旨、目的、研究科の構成、学生定員、専攻の構成、授与する学位、領域の概要、教員組織、教育課程編成の特色等）を前年度に引き続き検討した。本学の理念を基盤として、教育能力が高い大学の教員養成、地域医療構想に基づく地域医療提供体制の整備、そして、ふれあいグループの病院施設の地域医療の機能を活かした高度専門的看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士等医療従事者の養成を目標として、教員確保を第一に申請要件を解決するために年間9回に渡り協議を重ねた。特に平成28年度は、既設大学院への訪問・調査の実施、大学院入学者及び受入施設に対するニーズ調査項目の検討、設置スケジュールの管理・作業分担を明確にして業務に取り組んだ。また、平成29年2月に文科省大学設置室に第1回目の事前協議を行い、本大学院の計画概要を説明した。

8　湘南医療大学臨床医学研究所設置準備
平成30年4月開設を目標としている湘南医療大学臨床医学研究所（仮称）は、大学及びグループ病院の臨床に関わる研究者が連携して「地域に根ざした健康づくり」を軸に据えた設置構想を掲げて準備が進められた。研究対象とする分野・疾病、共同研究内容などを検討し、パンフレットを作成した。平成29年度は、研究所の運営に内容、規程、研究方法、研究設備などの詳細事項を次年度の開設に向けて準備を継続する。

②茅ヶ崎看護専門学校

ア）学生募集活動
高校生出願の確保と一般入試出願者確保を課題として、新卒出願者数の増を目標とし、ワンポイントアドバイスや志願者に伝えやすい内容を心がけるなど工夫し、手法を変更した。結果、前年度に比べAO入試で14名の増加、推薦入試で3名の増加となった。また、学校説明会は、オープンキャンパス形式に変更することで参加者が702名と昨年度から87名増加した。その他、ふれあいグループ病院施設での一日看護体験の参加者86名の内53名が受験したことも受験者数の増加に繋がった。そして、全体的に各種説明会を丁寧に実施したこと、及びふれあいグループの奨学金制度の周知を徹底したこともあり、入学辞退者は昨年度の11名から2名に大幅に減少したことも大きな成果であった。

イ）カリキュラムの効果的な実践ができる体制
平成28年は、カリキュラム進度上の問題から、解剖生理学、病理学及び基礎看護学の知識・理解の不足が明確となった。また、実習におけるコミュニケーションに問題を抱える学生への支援も課題となった。それを踏まえ、平成29年度は以下の課題の克服を念頭に学習組織体制の見直し、カリキュラム進度内容の見直しを図り、学習・実習支援を強化する。①基礎科目のカリキュラム進度、基礎学力の向上、クラスの協力体制の整備、再実習者の減少、実習時のコミュニケーション方法の事前学習に積極的に取り組み、休学者、退学者数及び成績不良者の減少につなげたい。
ウ）国家試験結果と考察
平成28年の国家試験結果は、新卒者67名の受験生に対して60名の合格者（89.5%）であった。平成28年度の指導を振り返り、次年度の対策として、①基礎看護学の知識の定着を徹底的に図る。②基礎看護学の知識と専門看護学領域への関連付けを理解できるように指導する。③再実習者の減少。④能力別国家試験対策グループにおける教員の指導方法の見直し、強化を図る。以上を実践し、次年度の国家試験に向けて教職員が一丸となって取り組み、合格率100%達成を目標とする。

③茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

ア）学生募集活動
本校を第一希望とする生徒を早期に受験させ、年内に定員の9割確保を心がけ、多数のコンタクト者を来校させる工夫の結果、来校者の半数近くを出願に結び付けることができた。しかし、理学療法学科及び作業療法学科は、他校との競合の影響もあり、ともに出願者数が昨年度に比べて若干減少したため、次年度の対応策を講ずる。一方、言語聴覚学科は、教育訓練給付金制度の導入等により受験者数増加につながった。

イ）教育の特色の鮮明化と魅力あるカリキュラムの実施
授業のみならず、確認テストや生活習慣記録ノートを導入し、成績不振者、留年生、科目再履修生のみならず、目標の高い学生に対しても「個別指導」を実施した結果、徹底的に面倒を見る体制が格段に向上した。一方、現行カリキュラム、進級制度の見直しや授業デザインを改善し、退学者を更に減少させる取り組みが新たに必要であることが今後の課題となった。

ウ）国家試験結果
理学療法学科54名中53名（98.1%）合格。作業療法学科15名中14名（93.3%）合格。言語聴覚学科33名中32名（97%）合格。社会福祉専攻科50名中24名（48%）、介護福祉士23名中18名（78.3%）と3学科及び２付帯事業において、全国平均を上回る好成績となった。

④下田看護専門学校

ア）学生募集活動
前年より踏襲した入試制度、指定校推薦制度の見直し、学校説明会内容の変更、学校ガイダンスへの積極参加に取り組んだ。入学者数においてもAO入試、特別AO、推薦入試で合格者を確保し、定員を充足することができた。選考試験においては面接のチェック項目の共有化を行い、筆記試験は国家試験に通じる内容を盛り込んで、それに対する意志と意欲を評価した。平成29年度は、大学志向、県外流出等、一層学生募集が厳しくなることを想定し、高校訪問の強化、一日看護体験の実施など、PR手法の改善と併せオープンキャンパスの企画運営を工夫し、選考できる志願者の確保に努める。

イ）カリキュラムの効果的な実践ができる組織体制の確立
休退学者を出さないための支援策を積極的に行った。具体的には①授業時間外学習の強化、②現在の学習状況の開示と確認テスト結果を保護者へ送付、③定期面談実施、④長期休暇中の課題作成、⑤夏季休暇中の成績不振者を対象とした補習教育、以上の取り組みの結果、遅刻・欠席が大幅に減少し、定期面談により早期の支援が行うことができた。また、実習指導は専任教員と臨地実習施設との連携を強化し、学生指導に当たった。

ウ）国家試験結果
38名中31名（81.6%）合格の結果となった。次年度に向けて、国家試験対策を踏まえ学生個々の弱点の克服に努めるという意識改革を高め、①講師との連携強化、②解剖学・生理学・疾病論（最重要3科目）の指導強化、③基礎学習（漢字・数学）の徹底、④実習強化を確実に行い、国家試験につながる教育を低学年から実施する。

⑤医療ビジネス観光情報専門学校

ア）国家試験・民間資格取得に向けた取組
「一人1資格以上取得」を目標にゼミ授業・検定対策を実施した。その結果、学科により異なるが、一人5.4資格から10.3資格（2年生各学科平均）を取得させ、成果を上げることができた。また、介護職員初任者研修取得者を初めて排出することができた。平成29年度は、基礎学力の強化、学習習慣を身に付けるさせる取り組みを行い、上位資格の取得者・取得率の向上を目標に努力する。

イ）本科外収入の確保
学校経営安定化のため、神奈川県の委託講座を2講座受託した。また、それ以外の外部機関の講座の受注や教室貸与事業を積極的に行った。
ウ）新規事業の創出
就職に直結する専門性を身に付けるための教育課程を構成する「職業実践専門課程」を医療ビジネス学科において文部科学省から認定を受けた。それをもって、平成29年度は、「教育訓練給付金」の対象となるべき、「専門実践教育訓練」の認定を目標とする。

エ）志願者・入学生の確保
平成28年度は、志願者数は前年度より12名増加し171名であった。しかし留学生の選抜を厳格化した結果、入学生は前年度より26名減少して120名となった。

オ）魅力あるカリキュラムの実施
就職力を身につけるために全教職員が学生指導に関わり、授業から就職活動から卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。①自立した社会人に必要とされる専門スキル、社会人基礎力及び道徳的心情を身につけさせる。②学生各人の能力に応じた指導目標を設定し、個別にキャリアカウンセリングを実施する。③医療従事者をはじめとする各学科における専門性を身に付けるためのカリキュラムと指導を展開　④技術及び能力の顕在化　上記4項目を学生が実感できる力を養うべく、実践的に取り組んだ。

カ）就職力向上
就職希望者73名に対して、内定者69名（94.5%）となった。医療ビジネス科では16名中12名がふれあいグループ病院施設の医事・総務課に就職し、入学から就職に及ぶ医療事務一貫養成教育として学校の使命・役割・目的を果たした。平成29年度以降は、学科を問わずグループに貢献できる人材育成を図り、グループ就職率を更に向上させる。

⑥みどり幼稚園

ア）理念の実践
「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を常に念頭に置き、やさしさと思いやりのある教育を実践し、園児一人一人の個性を大切にして、安全で楽しい場所であり、子どもたちに何が必要であるかを考えて行事や保育活動を行った。

イ）志願者・入園者の確保
①園内見学を6月6日から週3回5組/回で未就園児親子にみどり幼稚園の特色や、保育活動、教育方針などを理解していただけるように親切かつ丁寧に対応した。
②未就園児親子対象の園庭開放を水曜10時から2時間行い園児達と一緒に遊び、その様子などを理解していただいた。
③親子の交流、保護者同士の情報交換の場として、放課後「はまっこ広場」と称して園庭を開放した。
④トライスクール利用親子に園主催の行事に参加していただいた。
⑤みどりっこまつり、講演会、人形劇鑑賞、お餅つきなどを行い、親子や地域交流に努めた。
⑥ホームページで園行事を紹介し、参加募集を行い、多くの方々に行事に参加していただいた。
⑦教職員は常に情報を共有し、来園者には親切かつ丁寧に対応するよう心掛けた。
⑧認定こども園移行に伴い、定員数を見直し、1号認定園児はトライスクール入会児を優先し、100%確保した。なお、一般からの3歳児入園は定員数に達せず、平成29年度の園児数は205名となった。

ウ）教育の特色の鮮明化と魅力あるカリキュラムの実施について
①「丈夫な体を持つ子に」を大きな目標として年間を通して乾布摩擦の励行や縄跳び、鉄棒など達成感が持てる活動も取り入れ、年齢に応じた成果が出ている。
②絵本活動に力を入れ、絵本の読み聞かせを行った。絵本に興味を持つ子どもが増え集中力にもつながっている。
③個性を大切にし、言葉かけ等の対応を行った。心配や不安なことには保護者と面談や話し合いを持った。
④幼稚園の行事や活動の様子を月1回「クラスだより」として配布し、親子の関わりの大切さや園の考え方をお知らせした。
⑤誕生会にその月の誕生児保護者を招待しお祝いをした。また、終了後には、園長、主任との懇親会を開き子育て相談等で信頼関係を深めた。
⑥保育活動や行事を通して異年齢の交流を深めた。
⑦平成28年度は近隣の小中高校と定期的（4回実施）に交流を重ね、ふれあう時間を持った。
⑧グループの看護校、リハ校の実習生と交流を重ね、実習生の幼児理解につなげることができた。

⑦学校法人湘南ふれあい学園法人本部

１　幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の設置
平成26年度より着手した「みどり幼稚園」の幼保連携型認定こども園への移行は、平成29年1月に所轄庁への設置認可申請を行った。平成29年4月1日付で設置申請は認可され、「幼保連携型認定こども園みどり幼稚園」として、移行・開園した。また、新園舎も竣工し、教諭及び事務の人員を拡充し、新たな園児受け入れ態勢の充実を図った。

２　学園諸規程の整備
設置校・園の適切な運営に資するため、規程の整備を行った。みどり幼稚園の認定こども園移行に伴い、法令に準拠した園則に改正し寄附行為の変更届出を所轄庁へ行った。各専門学校においては、運営実態に合わせた学則変更を行った。大学においては、教育研究活動の充実のための規程改正を図った。今後も法令への対応、設置校・園の適正な運営に必要な規程整備を継続して行う。平成28年度においては8件の規程制定と11件の改正を行った。

３　社会的責任を果たす経営体制の強化
学園の運営状況の確認のため、監事と会計監査人が連携し、会計監査及び業務監査を実施した。本年度は、下田看護専門学校及び湘南医療大学において、内部監査並びに監事監査（業務監査）を行い、監事の学校責任者へのヒアリング、書面調査による点検によって、指摘された改善項目については、順次対応を行った。また、会計監査の実施により、学園の経営状況及び財務状況を明らかにすると共に、学園が着実な発展を遂げるための財務基盤の確立と会計処理の厳正な確認を行った。
学園及び設置校・園の運営状況は、事業報告書、事業計画書をホームページにおいて公表し、社会に対する情報発信を行っている。事業報告書は現在平成25年度分から公表されている。湘南医療大学においては、学校教育法施行規則に定められた教育研究活動等の情報をホームページに掲載している。今後とも情報公開の推進により、設置校・園ひいては、学園の諸活動へのステークホルダー及び社会の理解を得るよう努める。

４　ふれあいグループと連携した広報活動
学園の母体であるふれあいグループが発行する健康新聞に学園各校の近況の記事の掲載や学生募集につながる広告を依頼し、本学校法人が、医療・保健・福祉・教育が一体となっているグループの教育部門としての役割、社会への貢献、グループとの連携について広めている。また、平成28年度から地域の中学生・高校生を対象として、学校と病院が連携した「医療の職場体験」を実施し、医療の現場を体験して将来の職業を考えてもらえる広報活動を展開した。地域に対して、「健康」をテーマに公開講座を行い、本学ならびにグループの取組を広めた。なお、湘南医療大学は平成28年度は公開講座を5回行い、参加者は総計355名であった。

５　設備等教育・研究活動の環境整備
平成28年度実施の主な環境整備事業は、次のとおり。
①みどり幼稚園　園舎新築
②湘南医療大学　教育用備品及び図書館蔵書整備
今後も学生・園児の教育環境の整備に努め、より良い教育を提供していく。

６　学生支援の充実
ア　学生への個別指
各専門学校・大学では、担任制度又はチューター制度を採用し、学生の修学、学生生活、資格取得に関する相談に応じる体制を整えている。また、多様化する学生への指導にも注力し、課外補講等を実施している。また、各校の実情に合わせ、カリキュラムの見直し、朝学習の実施などに取り組んでいる。
イ　資格取得支
各校において専門分野の資格取得支援を充実させるため日々の小テストや復習テスト、模擬試験、長期休暇中の講座開設などで学生の資格試験対策を行っている。

ウ　経済的支援
　ふれあいグループの協力による「ふれあいグループ奨学金制度」は、多くの学生の経済的な支えとなっている。加えて公的奨学金や学資ローン等の情報提供と合わせて、経済的支援の充実を図った。
エ　健康支援
　学園全施設の全面禁煙、定期健康診断の実施と併せ、カウンセラーによる学生相談など、心身両面での健康推進支援を行っている。ふれあいグループ「健康友の会」の支援を受け、病院実習前に予防接種を実施、学生の健康だけではなく、関係先への配慮をした学生の健康管理を行った。また各校に「健康友の会」のパンフレットを置くなど勧誘と併せ、学生自身の健康管理の啓発と病気時の安心の提供を勧めている。
オ　学生寮
　茅ヶ崎、下田市内に学生寮（女子）を設置し、周辺より安価な費用で入寮を希望する学生に部屋を提供している。遠方からの入学生にとって、安心かつ安全な生活基盤であるとともに志を同じくする学生の集団生活を通じた成長の場となっている。

⑧教育部会・大学部会活動　平成28年度実施プログラム

月　日	教育部会	大学部会
4月16日/5月14日	○ＰＤＣ・・・湘南医療大学 ○コンプライアンス（H28年度学園規程の変更点）・・・学園本部 ○マナー(身だしなみ）・・・茅ヶ崎看護専門学校 ○６Ｓ（整理整頓）・・・医療ﾋﾞｼﾞﾈｽ観光情報専門学校	
	○学校別ＦＤ＆ＳＤ演習（新年度の広報、学校説明会対策について）	○大学の理念・目的、学部の教育目的 ○ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー ○３つの教育実践 １．高度な専門知識と技術教育 ２．質の高いチーム医療教育 ３．地域医療の充実 ○リハビリテーション学科の教育目標 ○看護学科設立までの過程
6月19日	**専門部会別研修会：「チーム医療」を理解するアクティブラーニング** ○アクティブラーニングについて ○模擬授業①ジグソー法・・・茅ヶ崎看護専門学校 ○模擬授業②反転授業・・・医療ﾋﾞｼﾞﾈｽ観光情報専門学校 ○模擬授業③グループワーク・・・下田看護専門学校 ○模擬授業④「チーム医療」教育 ○「チーム医療」の取り組み①～③・・・茅ヶ崎看護専門学校、下田看護専門学校、医療ﾋﾞｼﾞﾈｽ観光情報専門学校 ○学生募集の取組みと成果の報告①～⑤・・・茅ヶ崎ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校、茅ヶ崎看護専門学校、下田看護専門学校、医療ﾋﾞｼﾞﾈｽ観光情報専門学校、みどり幼稚園	**専門部会別研修会：大学が実践するカリキュラムポリシー** ○カリキュラム・ポリシーの意義 **カリキュラムポリシーの実践報告と実践計画** ○DPを踏まえたカリキュラム・ポリシー ○APを踏まえたカリキュラム・ポリシー ○看護学科カリキュラム・ポリシーの実践報告 ○カリキュラムポリシーの実践報告（理学療法学専攻） ○作業療法学専攻におけるCPの実践・現状報告 ○カリキュラムポリシーの実践報告（理学療法学専攻） ○作業療法学専攻におけるCPの実践・現状報告
7月16日/8月13日	○PDC：国試対策・・・茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 ○コンプライアンス：個人情報管理について・・・湘南医療大学 ○マナー：接遇について・・・学園本部 ○６S：清掃・清潔・・・茅ヶ崎看護専門学校 ○FD：学生の生活指導法・・・医療ﾋﾞｼﾞﾈｽ観光情報専門学校 ○SD：企画力や改善力の強化・・・茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	
	教員：授業デザインと教授法について 職員：学生募集と広報力について	FD研修：授業研究（教授法と授業力） SD研修①：学生を取り巻くトラブルと防止に向けた対応 SD研修②：今後の学校説明会・オープンキャンパスの対策
9月17日/10月15日	○PDC：学生募集・・・湘南医療大学 ○コンプライアンス：規程のガイドラインについて・・・学園本部 ○国試対策報告・・・茅ヶ崎看護専門学校 ○FD研修：コミュニケーション・カウンセリング法・・・茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 ○SD研修：企画力や改善力の強化・・・茅ヶ崎看護専門学校	
	FD研修：授業デザインと教授法について SD研修：学生募集と広報力について	防犯・防災・校舎管理 FD研修：教員相互授業参観の自己評価 SD研修①：残業しないための時間管理
11月19日/12月17日	○PDC（前月・次月）：学生募集・・・茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 ○コンプライアンス：情報・文書管理・・・茅ヶ崎看護専門学校 ○国試対策・・・茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 ○FD：アセスメント（授業評価）・・・茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 ○SD：人間力の強化	
	＜茅ヶ崎看護専門学校＞ 教員：授業評価方法について 職員：資料請求者と説明会参加者の状況について ＜茅ヶ崎ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校＞ 教員：教授法「模擬授業」 職員：本年度の募集計画に対するここまでの結果と今後の方針 ＜下田看護専門学校＞ 教職員：確認テストでわかる学生の理解度 ＜医療ﾋﾞｼﾞﾈｽ観光情報専門学校＞ 教職員：今後の学生募集について	FD研修：研究活動における研究費不正行為防止に関する研修 SD研修：ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上
1月14日/3月18日	○PDC：学生募集・・・下田看護専門学校 ○コンプライアンス：試験・成績管理・・・茅ヶ崎看護専門学校 ○６S活動：しつけ・作法・・・湘南医療大学 ○FD：カリキュラム／シラバス開発と改善・・・茅ヶ崎看護専門学校 ○SD：業務新知識や話題・・・学園本部	
	＜茅ヶ崎看護専門学校＞ FD：再履修・再実習をなくすためのシラバス作成 SD：高校生の出願率を高めるための広報活動について ＜茅ヶ崎リハビリテーション専門学校＞ FD:低成績者をなくすための授業について SD：学力レベルの高い学生の獲得方法について ＜下田看護専門学校＞ FD：授業デザインと教授法について ＜医療ﾋﾞｼﾞﾈｽ観光情報専門学校＞ FD：相互授業参観と評価 SD：本年度の募集活動（昨年度以上の）についての考察から次年度の展開を考える	FD研修 看護学科「看護学科１期生の学力状況と教育の振り返り、および今後の課題」 理学療法学専攻「理学療法学専攻1期生へのリメディアル教育の取り組み～成果と課題」 作業療法学専攻「湘南医療大学１期生に対する意欲・学習習慣への取り組み～よき作業療法士になるために」 SD研修 「初年度の教育事務の振り返り」 「SD研修のまとめ」
2月19日	**医　療　研　究　会**	

教育部会テーマ：アクティブ・プランニングの推進

朝学習から得られた学生への効果	茅ヶ崎看護専門学校
基礎学力不足入学者に対する取組事例について	学園本部
学生がチーム医療の理解を深めるための取り組み	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
病院事務職員養成のための授業デザイン	医療ビジネス観光情報専門学校
「実習評価基準」導入後の経過報告	茅ヶ崎看護専門学校
国家試験の結果から考える科目試験の妥当性	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
実習が国家試験に及ぼす影響	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
ITパスポート試験の受験指導に関する研究	医療ビジネス観光情報専門学校
歩留り（出願）率を高める工夫とその効果	茅ヶ崎看護専門学校
学生募集	下田看護専門学校
社会福祉専攻科の現状と課題	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
２９年度募集総括と３０年度募集に向けて	医療ビジネス観光情報専門学校
看護学生の食生活－アンケート調査の結果と課題－	下田看護専門学校
茅ヶ崎なうｗ	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
ふれあい医療福祉研修センター　平成２８年度研修事業報告について	学園本部
臨床の言語聴覚士と学生の食形態決定に関する視点の検討	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
中足骨頭下に頂点が位置するRocker Soleが歩行時の下肢関節運動に及ぼす影響	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
平成２８年度診療報酬改訂と地域医療構想から考える在宅医療／介護について	医療ビジネス観光情報専門学校
対人援助職の動機づけ喚起に対する試みに関して～学生と失語症者との交流を通じて～	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
教育方法に関する研修　看護の演習をデザインする	茅ヶ崎看護専門学校
作業適応の危機を経験しながらも大切な作業を継続している高齢者の作業の意味生成様式の探索的研究	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
受動的な受講から能動的な学修へ	シンポジウム

幼・保育部会：幼稚園教諭・保育としての乳幼児への関わり～平成２８年度の活動報告～

担当施設紹介・顔合わせ	
保護者の心をつかむ保育コミュニケーション力	みどり幼稚園
多職種連携を通して、幼保小連携の取り組み	みどり幼稚園
新規採用教員夏期研修会の報告	みどり幼稚園
感染対策について	あすなろ保育園
カウンセリング研究会を通しての学びと実践	みどり幼稚園
戸塚区研修　初任者班を受けて	みどり幼稚園
幼稚園の２重保育について	あすなろ保育園
１・２歳児の教育と遊び	みどり幼稚園
インクルーシブ教育について	みどり幼稚園
こどもの「遊び」について	みどり幼稚園
夜勤保育の受け入れ	あすなろ保育園
自閉症スペクトラム障害の理解	みどり幼稚園
子どもの五感教育	みどり幼稚園
小児医療研修に参加して	みどり幼稚園
食育、遊び、午睡等について	ディスカッション

大学部会テーマ：

見学実習における社会的スキルの変化に関する検討～Kiss－18による評価～	湘南医療大学保健医療学部 リハビリテーション学科　個人研究発表
講堂分析学の枠組みを用いた高齢障害者への介助指導に関する研究	
中殿筋の筋線維の肉眼的調査報告	
前足部接地ランニングの運動学的分析	
荷重位での膝関節屈曲動作における足部アーチと膝関節の動きの関係	
高齢患者における実用歩行に必要な歩幅に関する研究	
膝蓋腱完全断裂から競技復帰を目指したプロサッカー選手の一症例（症例報告）	
肩関節周囲の軟部組織に対する超音波検査の信頼性の検討	
下垂足を呈した糖尿病患者に対するフットウェアの工夫	
リハロボシステムを用いたグレード５CIセラピーの開発	
地域生活STATチェックリストの開発～医療観察法対象者の退院時の地域との情報共有～	
自発的に支援を求めない事例への関わり～きっかけ作りから支援関係に至るプロセス研究～	
高次脳機能障害に対するリハビリテーション研究と地域支援についての進捗状況	
高齢者は趣味を継続できるのか？	
一人暮らし高齢者における介護予防の文献レビュー	
介助用電動車いすの使用経験	
発達障害児・者の認知的、運動学的な諸課題に関する基礎的研究～脊髄性筋委縮症（SMA）のSMN転写産物の検討～	
ダーツスローモーションの可動域：ナラティブレヴュー	
学生の能力を向上させる教育研究～リハビリテーション学科の学生教育の取り組みを中心に～	

全次対応救急外来の看護師教育体制を構築して見えた課題～現在の看護大学生の傾向から臨床教育を再考して～	湘南医療大学保健医療学部 看護学科　個人研究発表
養護実習における実習前後の不安に関する研究～バイタルサイン測定の問診の復習に着目して～	
高齢血液透析患者が地域で生活を継続させるために必要な要因に関する検討	
食物アレルギーの子どもを持つ親への育児支援	
高齢者におけるフットマッサージの研究に関する文献検討	
ギニア・ボッソウ地域在住高齢者の主観的健康観とCGAの関連	
神奈川県内の看護系大学におけるジェンダー関連科目の概況（中間報告）	
成熟期女性の冷え性の自覚と体温	
女子高校生の娘をもつ母親の子宮頸がん予防の態度と行動	
青年期統合失調症者の早期介入に関する研究	
医療的ケアが必要な子どもとその母親への支援について	
人に優しい自動排泄処理装置の開発と普及への支援	
CQOLC日本語版の信頼性・妥当性の検証	
６５歳以上の在宅高齢者全数調査データに基づく食習慣と認知症との関連	
医療的ケアを必要とする子どもとその家族の在宅医療に関する研究	
ナイチンゲール看護の倫理性	
看護系大学・専門学校入学以前における高校生の社会人基礎力に関する研究（中間報告）	
多胎育児ピアサポートの取り組み	
教育用シミュレーターを用いたフィジカルアセスメント演習における教授－学習過程に関する研究	
訪問看護師のためのアセスメントツールの開発	
遷延性意識障害の病態と治療：意識とは何か	
学生の学力を向上させる教育方法	

⑨生涯学習事業

ア）介護職員初任者研修（通信併用）について年間を通じて受講生は定員の半数に留まった。これを受けて平成29年度は近隣住宅等へのポスティング等、一軒一軒への営業活動を強化する。また、医療ビジネス校の医療系学生を対象に同研修を実施する予定であり、必要に応じて他のグループ校でも実施を検討する。
イ）介護福祉士実務者研修は初めての国家試験で、受験者23名中18名合格（78.3%）となり全国平均合格率（72.1%）以上となった。平成29年度は受講生の苦手分野対策を充実させた国家試験対策講座の実施を計画する。
ウ）看護系研修では、認知症看護研修（加算２）を2回開講し、計50名の受講生となった。平成29年度はこの研修をベースに認定看護師（認知症看護分野）養成コースの申請を進め、平成30年度の開講を目指す。

平成28年度　学校法人湘南ふれあい学園ふれあい医療福祉研修センター　事業報告

系統	看護系		介護系				社会福祉系			事務系
事業名	看護師実習 指導者講習会	認知症看護研修	介護職員初任者 研修（通信併用）	介護福祉士 実務者研修 （通信制）	喀痰吸引等研修	ケアプラン作成 クラス（通信）	社会福祉士実習 指導者講習会	ケアマネ試験 対策講座	社会福祉専攻科 （通信）	医療事務講座 （初級・中級） ※初級は通信講座
期日	H28.9.1～12.7	第1回:H28.12.7、8 第2回:H29.2.8、10	第1回：H28.5.9～7.1 第2回：H28.8.7～9.28 第3回：H28.10.28～12.21 第4回：H29.1.30～3.29	第1回：H28.3.1～8.31 第2回：H29.2.1～H29.7.31	H28.11.10～ H29.2.10	H28.10.6～10.27	H29.2.25、3.11	H28.8.29～9.23	毎年4月～ 翌年12月末	初級：H28.6～12月 中級：H28.12.13～H29.3.28
期間	約3ヶ月間	2日	講義：15日 実習：２日	6ヶ月間	講義：8日 演習：1日 実習：1日	通信3回、講義1日	講義2日	模試2回	1年9ヶ月	初級：6ヶ月 中級：講義12日
定員	40名	各20名	各20名	各30名	20名	20名	20名	20名	80名	初級：25名 中級：20名
受講状況	24名	第1回：18名 第2回：32名	第1回：12名 第2回：11名 第3回：10名 第4回：９名	第1回：28名 第2回：28名	19名	13名	29名	13名	50名	初級：29名 中級：11名
受講対象者	以下の①～③の要件を満たす者 ①保健師、助産師、看護師の資格取得後3年以上の実務経験を有し、現在実習指導者の任にある者又は今後実習指導者になる予定のある者 ②今後臨地実習を受け入れる予定のある病院、施設で勤務する者で施設から推薦された者 ③積極的に研修に取り組む意欲があり、本学園が講習会を受けるにふさわしいと認めた者	看護師	満16歳以上で介護・福祉関係への就業を希望している者	①介護業務に従事している者又は従事予定の者で、介護福祉士の資格取得を目指す者 ②男女年齢を問わず、心身共に健全である者 ③スクーリングに参加可能な者 ④高等学校卒業以上の学力があると認められる者	介護従事者	ふれあいグループ職員	社会福祉士で今後実習指導の予定のある者	ふれあいグループ職員	次の①～③のいずれかに該当する者 ①大学等を卒業した方 ②3年制の短期大学等を卒業し、指定施設における相談援助の実務経験が1年以上ある方 ③2年制の短期大学等を卒業し、指定施設における相談援助の実務経験が2年以上ある方 ④指定施設における相談援助の実務経験が4年以上ある方	ふれあいグループ職員
取得資格	看護師実習指導者講習会修了	認知症看護研修修了	介護職員初任者研修	介護福祉士国家試験受験資格	喀痰吸引等研修修了	－	社会福祉士実習指導者講習会修了	－	社会福祉士国家試験受験資格	ふれあい医療事務管理士 （初級・中級）

⑩教職員の6S活動

湘南ふれあい学園では、部署ごとにSの頭文字で始まる「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ、作法」の6つをテーマに職場の改善活動に取り組んでいる。毎月のテーマに従い、部署ごとのミーティングにより目標設定を行い、全職員が参画し実行している。平成28年度は6S活動の実践に次に述べるPDC活動を組み合わせることにより、更にスピーディーかつ厳密に職場の体質改善を図るとともに、職場の美化による環境改善を行った。

⑪PDC活動

湘南ふれあい学園では、PDC活動を積極的に実施し業務の改善、課題解決を効率的に行っている。目標達成のために実行計画を立て（Plan）、計画を実行（Do）、得られた結果を検証する（Check）サイクルによって、各教職員及び各施設の活動の質的向上と目的達成を目指した。客観的な業務の見直しは、教育分野においては、教育課程の検証、学生指導、実習指導及び国家試験対策等に、事務分野においては、教務・学生サービス、学生募集・広報活動に活かされている。

⑫学生及び教職員のモラル・マナー改善への取り組み

SNSの利用に関して、本学園の学生においても不適切な利用事例が散見されるようになり学生に対しSNSの適切な利用について指導をするとともに、トラブルに巻き込まれないための注意喚起を行った。同様に教職員に対しても、湘南ふれあい学園の行動基準、行動指針、職場服務心得に基づき、SNSの適切な利用を促した。

また教職員に対し、公的研究費の不正使用、研究活動における不正行為について学園全体の課題として、研修会等の機会を通じて啓発活動を行った。

3　施設の状況

(1)平成29年3月現在の学校法人所有施設の所在等

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地・学校名	校地(㎡)	施設等	面積(㎡)	摘要
横浜市戸塚区汲沢2-26-14 みどり幼稚園	2,346.00	園舎	1,120.00	自己所有
茅ケ崎市今宿390番地 茅ケ崎看護専門学校	1,477.64	校舎	2,893.32	自己所有
茅ケ崎市南湖1-6-11 茅ケ崎リハビリテーション専門学校	3,751.55	校舎	5,725.54	自己所有
相模原市南区上鶴間本町3-18-27 医療ビジネス観光情報専門学校	1,106.50	校舎	4,360.56	自己所有
下田市柿崎289番地 下田看護専門学校	4,919.00	校舎	6,766.00	自己所有
横浜市戸塚区上品濃16-18 湘南医療大学	7,881.98	校舎	14,645.14	校地 (借地) 校舎 (自己所有/一部借用)

(2)主な施設設備の取得及び処分

主な施設設備の取得状況は次のとおりである。

みどり幼稚園　建物・構築物　170,318千円

湘南医療大学教育用備品・校具（設置計画平成28年度分及び変更計画分）
各専門学校及び幼稚園教育用備品・校具

主な施設の処分状況は次のとおりである。

みどり幼稚園　建物　146千円
図書の除却　287千円
備品の除却　4,761千円

貸借対照表

平成29年3月31日

（単位：円）

資産の部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定資産	7,641,192,048	7,697,166,872	△ 55,974,824
有形固定資産	7,633,125,475	7,690,246,085	△ 57,120,610
土　地	1,334,580,824	1,324,879,424	9,701,400
建　物	5,644,463,194	5,700,070,312	△ 55,607,118
構築物	172,800,374	175,814,703	△ 3,014,329
教育研究用機器備品	312,379,211	333,098,301	△ 20,719,090
管理用機器備品	32,398,325	37,608,808	△ 5,210,483
図　書	135,449,355	117,253,286	18,196,069
車　両	1,054,192	1,521,251	△ 467,059
特定資産	0	0	0
その他の固定資産	8,066,573	6,920,787	1,145,786
施設利用権	6,341,096	5,518,197	822,899
出資金	540,000	480,000	60,000
長期貸付金	1,068,697	805,810	262,887
敷金	50,000	50,000	0
預託金	66,780	66,780	0
流動資産	3,568,487,677	3,159,400,019	409,087,658
現金預金	3,074,205,934	2,776,746,230	297,459,704
未収入金	128,657,471	24,538,259	104,119,212
前払金	1,164,950	2,303,324	△ 1,138,374
仮払金	8,000	503,945	△ 495,945
立替金	2,505,757	0	2,505,757
収益事業勘定	361,945,565	355,308,261	6,637,304
資産の部合計	11,209,679,725	10,856,566,891	353,112,834

（単位：円）

負債の部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定負債	1,537,468,492	1,625,728,098	△ 88,259,606
長期借入金	1,422,533,102	1,503,609,504	△ 81,076,402
長期未払金	28,616,290	43,754,194	△ 15,137,904
退職給与引当金	86,319,100	78,364,400	7,954,700
流動負債	1,460,487,006	1,192,543,123	267,943,883
短期借入金	81,076,402	103,968,536	△ 22,892,134
未払金	265,189,937	107,028,058	158,161,879
前受金	1,076,050,500	962,347,000	113,703,500
預り金	38,170,167	19,199,529	18,970,638
負債の部合計	2,997,955,498	2,818,271,221	179,684,277

純資産の部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
基本金	8,529,180,031	8,373,967,900	155,212,131
第1号基本金	8,396,180,031	8,265,967,900	130,212,131
第4号基本金	133,000,000	108,000,000	25,000,000
繰越収支差額			
翌年度繰越収支差額	△ 317,455,804	△ 335,672,230	18,216,426
純資産の部合計	8,211,724,227	8,038,295,670	173,428,557
負債及び純資産の部合計	11,209,679,725	10,856,566,891	353,112,834

資 金 収 支 計 算 書

平成28年 4月 1日から
平成29年 3月31日まで

（単位:円）

収入の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
学生生徒等納付金収入	1,809,888,400	1,798,457,830	11,430,570
授業料収入	1,210,227,000	1,201,057,580	9,169,420
入学金収入	136,530,000	135,651,280	878,720
実験実習料収入	110,070,000	110,130,000	△ 60,000
施設設備資金収入	331,390,000	331,810,000	△ 420,000
暖房費収入	591,000	592,200	△ 1,200
諸費収入	433,400	438,770	△ 5,370
付属教育事業収入	20,647,000	18,778,000	1,869,000
手数料収入	54,352,000	51,049,944	3,302,056
入学検定料収入	38,492,000	34,884,000	3,608,000
試験料収入	10,150,000	10,188,340	△ 38,340
証明手数料収入	660,000	927,604	△ 267,604
諸費収入	1,200,000	1,200,000	0
実習費負担金収入	3,850,000	3,850,000	0
寄付金収入	85,000,000	85,000,000	0
一般寄付金収入	85,000,000	85,000,000	0
補助金収入	124,772,000	230,056,885	△ 105,284,885
都道府県補助金収入	116,687,000	120,058,261	△ 3,371,261
市町村補助金収入	8,085,000	109,998,624	△ 101,913,624
資産売却収入	0	0	0
付随事業･収益事業収入	61,882,000	59,469,015	2,412,985
補助活動事業収入	41,532,000	41,128,685	403,315
付帯事業収入	4,000,000	3,707,787	292,213
教材料収入	5,650,000	3,693,143	1,956,857
業務受託収入	7,200,000	7,154,280	45,720
収益事業収入	3,500,000	3,785,120	△ 285,120
受取利息･配当金収入	620,000	106,113	513,887
その他の受取利息･配当金収入	620,000	106,113	513,887
雑収入	47,510,000	48,654,623	△ 1,144,623
施設設備利用料収入	20,060,000	22,765,794	△ 2,705,794
研究関連収入	2,500,000	1,065,891	1,434,109
その他の雑収入	24,950,000	24,822,938	127,062
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,149,173,500	1,076,050,500	73,123,000
授業料前受金収入	761,913,500	647,133,000	114,780,500
入学金前受金収入	136,530,000	130,950,000	5,580,000
実験実習料前受金収入	59,035,000	89,927,500	△ 30,892,500
施設設備資金前受金収入	191,695,000	207,840,000	△ 16,145,000
実習費負担金前受金収入	0	200,000	△ 200,000
その他の収入	32,329,000	43,914,842	△ 11,585,842
前期末未収入金収入	24,329,000	24,448,259	△ 119,259
仮払金回収収入	0	495,945	△ 495,945
預り金受入収入	8,000,000	18,970,638	△ 10,970,638
資金収入調整勘定	△ 987,347,000	△ 1,090,914,471	103,567,471
期末未収入金	△ 25,000,000	△ 128,567,471	103,567,471
前期末前受金	△ 962,347,000	△ 962,347,000	0
前年度繰越支払資金	2,776,746,230	2,776,746,230	0
収入の部合計	5,154,926,130	5,078,591,511	76,334,619

支出の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
人件費支出	1,138,907,000	1,116,822,920	22,084,080
教員人件費支出	873,000,000	871,707,999	1,292,001
職員人件費支出	256,370,000	235,897,121	20,472,879
役員報酬支出	4,274,000	3,979,000	295,000
退職金支出	5,263,000	5,238,800	24,200
教育研究経費支出	421,709,000	408,032,818	13,676,182
消耗品費支出	53,500,000	52,599,152	900,848
光熱水費支出	46,000,000	45,920,719	79,281
旅費交通費支出	15,400,000	14,730,162	669,838
奨学費支出	53,380,000	52,902,000	478,000
福利費支出	12,900,000	12,105,634	794,366
通信費支出	6,344,000	5,765,986	578,014
印刷製本費支出	7,320,000	6,226,989	1,093,011
修繕費支出	24,500,000	24,447,616	52,384
損害保険料支出	6,491,000	6,076,834	414,166
賃借料支出	7,650,000	5,866,210	1,783,790
報酬委託手数料支出	145,134,000	144,914,570	219,430
保健衛生費支出	50,000	7,060	42,940
行事費支出	7,200,000	4,708,982	2,491,018
実習費支出	13,200,000	11,881,300	1,318,700
研修費支出	1,300,000	928,001	371,999
教材費支出	9,300,000	7,189,141	2,110,859
給食費支出	11,800,000	11,602,482	197,518
雑費支出	240,000	159,980	80,020
管理経費支出	278,477,800	252,855,511	25,622,289
消耗品費支出	22,400,000	21,296,551	1,103,449
光熱水費支出	8,000,000	6,950,513	1,049,487
旅費交通費支出	8,300,000	6,632,639	1,667,361
福利費支出	10,200,000	7,986,037	2,213,963
通信費支出	12,800,000	11,934,795	865,205
印刷製本費支出	16,600,000	15,417,586	1,182,414
修繕費支出	9,854,000	8,326,722	1,527,278
損害保険料支出	2,750,000	1,649,370	1,100,630
賃借料支出	5,378,000	4,029,056	1,348,944
公租公課支出	9,800,000	6,242,867	3,557,133
広報費支出	79,689,800	75,538,501	4,151,299
諸会費支出	4,130,000	3,337,619	792,381
渉外費支出	110,000	40,682	69,318
報酬委託手数料支出	75,421,000	75,275,366	145,634
負担金支出	245,000	45,000	200,000
実習費支出	1,000,000	38,000	962,000
研修費支出	1,070,000	180,833	889,167
教材費支出	2,400,000	1,074,886	1,325,114
給食費支出	4,600,000	4,043,297	556,703
車両燃料費支出	1,260,000	626,749	633,251
雑費支出	2,470,000	2,188,442	281,558
借入金等利息支出	43,927,000	38,537,136	5,389,864
借入金利息支出	43,927,000	38,537,136	5,389,864
借入金等返済支出	105,188,000	103,968,536	1,219,464
借入金返済支出	105,188,000	103,968,536	1,219,464

支出の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
施設関係支出	241,740,000	172,169,473	69,570,527
建物支出	230,000,000	161,503,433	68,496,567
構築物支出	9,740,000	9,289,040	450,960
施設利用権支出	2,000,000	1,377,000	623,000
設備関係支出	57,650,000	36,994,183	20,655,817
教育研究用機器備品支出	32,800,000	23,593,770	9,206,230
管理用機器備品支出	3,450,000	1,321,914	2,128,086
図書支出	20,400,000	12,078,499	8,321,501
車両支出	1,000,000	0	1,000,000
資産運用支出	17,100,000	16,398,705	701,295
その他の固定資産支出	100,000	60,000	40,000
収益事業元入金支出	17,000,000	16,338,705	661,295
その他の支出	118,834,142	110,961,652	7,872,490
貸付金支払支出	500,000	262,887	237,113
前期末未払金支払支出	112,834,142	107,028,058	5,806,084
前払金支払支出	2,500,000	1,164,950	1,335,050
立替金支払支出	3,000,000	2,505,757	494,243
予備費	(7,100,000) 7,900,000		7,900,000
資金支出調整勘定	△ 132,303,324	△ 252,355,357	120,052,033
期末未払金	△ 130,000,000	△ 250,052,033	120,052,033
前期末前払金	△ 2,303,324	△ 2,303,324	0
翌年度繰越支払資金	2,855,796,512	3,074,205,934	△ 218,409,422
支出の部合計	5,154,926,130	5,078,591,511	76,334,619

注　記　　予備費の使用内訳

科目	金額
資産運用支出	4,100,000
その他の固定資産支出	100,000
収益事業元入金支出	4,000,000
その他の支出	3,000,000
立替金支払支出	3,000,000
合計	7,100,000

活動区分資金収支計算書

平成28年 4月 1日から
平成29年 3月31日まで

（単位：円）

		科目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,798,457,830
		手数料収入	51,049,944
		一般寄付金収入	85,000,000
		経常費等補助金収入	127,679,885
		付随事業収入	55,683,895
		雑収入	48,654,623
		教育活動資金収入計	2,166,526,177
	支出	人件費支出	1,116,822,920
		教育研究経費支出	408,032,818
		管理経費支出	252,855,511
		教育活動資金支出計	1,777,711,249
		差引	388,814,928
		調整勘定等	118,106,415
	教育活動資金収支差額		506,921,343
施設整備等活動による資金収支		科目	金額
	収入	施設設備補助金収入	102,377,000
		施設整備等活動資金収入計	102,377,000
	支出	施設関係支出	172,169,473
		設備関係支出	36,994,183
		施設整備等活動資金支出計	209,163,656
		差引	△ 106,786,656
		調整勘定等	35,640,222
	施設整備等活動資金収支差額		△ 71,146,434
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）			435,774,909
その他の活動による資金収支		科目	金額
	収入	仮払金回収収入	495,945
		預り金受入収入	18,970,638
		小計	19,466,583
		受取利息・配当金収入	106,113
		収益事業収入	3,785,120
		その他の活動資金収入計	23,357,816
	支出	借入金等返済支出	103,968,536
		貸付金支払支出	262,887
		立替金支払支出	2,505,757
		その他の固定資産支出	60,000
		収益事業元入金支出	16,338,705
		小計	123,135,885
		借入金等利息支出	38,537,136
		その他の活動資金支出計	161,673,021
		差引	△ 138,315,205
		調整勘定等	0
	その他の活動資金収支差額		△ 138,315,205
支払資金の増減額 （小計＋その他の活動資金収支差額）			297,459,704
前年度繰越支払資金			2,776,746,230
翌年度繰越支払資金			3,074,205,934

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

（単位：円）

項目	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	1,076,050,500	1,076,050,500	0	0
前期末未収入金収入	24,448,259	24,448,259	0	0
期末未収入金	△ 128,567,471	△ 26,190,471	△ 102,377,000	0
前期末前受金	△ 962,347,000	△ 962,347,000	0	0
収入計	9,584,288	111,961,288	△ 102,377,000	0
前期末未払金支払支出	107,028,058	107,028,058	0	0
前払金支払支出	1,164,950	1,164,950	0	0
期末未払金	△ 250,052,033	△ 112,034,811	△ 138,017,222	0
前期末前払金	△ 2,303,324	△ 2,303,324	0	0
支出計	△ 144,162,349	△ 6,145,127	△ 138,017,222	0
収入計−支出計	153,746,637	118,106,415	35,640,222	0

事 業 活 動 収 支 計 算 書

平成28年 4月 1日から
平成29年 3月31日まで

（単位:円）

	科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,809,888,400	1,798,457,830	11,430,570
	授業料	1,210,227,000	1,201,057,580	9,169,420
	入学金	136,530,000	135,651,280	878,720
	実験実習料	110,070,000	110,130,000	△ 60,000
	施設設備資金	331,390,000	331,810,000	△ 420,000
	暖房費	591,000	592,200	△ 1,200
	諸費	433,400	438,770	△ 5,370
	付属教育事業収入	20,647,000	18,778,000	1,869,000
	手数料	54,352,000	51,049,944	3,302,056
	入学検定料	38,492,000	34,884,000	3,608,000
	試験料	10,150,000	10,188,340	△ 38,340
	証明手数料	660,000	927,604	△ 267,604
	諸費	1,200,000	1,200,000	0
	実習費負担金	3,850,000	3,850,000	0
	寄付金	85,250,000	85,113,384	136,616
	一般寄付金	85,000,000	85,000,000	0
	現物寄付	250,000	113,384	136,616
	経常費等補助金	124,772,000	127,679,885	△ 2,907,885
	都道府県補助金	116,687,000	120,058,261	△ 3,371,261
	市町村補助金	8,085,000	7,621,624	463,376
	付随事業収入	58,382,000	55,683,895	2,698,105
	補助活動事業収入	41,532,000	41,128,685	403,315
	付帯事業収入	4,000,000	3,707,787	292,213
	教材料	5,650,000	3,693,143	1,956,857
	受託業務	7,200,000	7,154,280	45,720
	雑収入	47,510,000	50,950,138	△ 3,440,138
	施設設備利用料	20,060,000	22,765,794	△ 2,705,794
	研究関連	2,500,000	1,065,891	1,434,109
	その他の雑収入	24,950,000	27,118,453	△ 2,168,453
	教育活動収入計	2,180,154,400	2,168,935,076	11,219,324

		科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
教育活動収支	事業活動支出の部	人件費	1,151,907,000	1,124,777,620	27,129,380
		教員人件費	873,000,000	871,707,999	1,292,001
		職員人件費	256,370,000	235,897,121	20,472,879
		役員報酬	4,274,000	3,979,000	295,000
		退職金	5,263,000	1,819,800	3,443,200
		退職給与引当金繰入額	13,000,000	11,373,700	1,626,300
		教育研究経費	677,319,000	661,929,829	15,389,171
		消耗品費	53,900,000	52,712,536	1,187,464
		光熱水費	47,000,000	45,920,719	1,079,281
		旅費交通費	15,700,000	14,730,162	969,838
		奨学費	53,380,000	52,902,000	478,000
		福利費	12,900,000	12,105,634	794,366
		通信費	6,344,000	5,765,986	578,014
		印刷製本費	7,320,000	6,226,989	1,093,011
		修繕費	25,500,000	24,447,616	1,052,384
		損害保険料	6,491,000	6,076,834	414,166
		賃借料	7,650,000	5,866,210	1,783,790
		報酬委託手数料	145,234,000	144,914,570	319,430
		保健衛生費	50,000	7,060	42,940
		減価償却額	254,110,000	253,783,627	326,373
		行事費	7,200,000	4,708,982	2,491,018
		実習費	13,200,000	11,881,300	1,318,700
		研修費	1,300,000	928,001	371,999
		教材費	8,100,000	7,189,141	910,859
		給食費	11,700,000	11,602,482	97,518
		雑費	240,000	159,980	80,020
		管理経費	305,810,800	280,272,039	25,538,761
		消耗品費	22,000,000	21,296,551	703,449
		光熱水費	9,300,000	6,950,513	2,349,487
		旅費交通費	8,300,000	6,632,639	1,667,361
		福利費	10,200,000	7,986,037	2,213,963
		通信費	12,800,000	11,934,795	865,205
		印刷製本費	16,600,000	15,417,586	1,182,414
		修繕費	9,854,000	8,326,722	1,527,278
		損害保険料	2,750,000	1,649,370	1,100,630
		賃借料	5,378,000	4,029,056	1,348,944
		公租公課	9,800,000	6,242,867	3,557,133
		広報費	76,189,800	75,538,501	651,299
		諸会費	4,130,000	3,337,619	792,381
		渉外費	110,000	40,682	69,318
		報酬委託手数料	75,621,000	75,275,366	345,634
		負担金	245,000	45,000	200,000
		減価償却額	29,733,000	27,416,528	2,316,472
		実習費	1,000,000	38,000	962,000
		研修費	1,070,000	180,833	889,167
		教材費	2,400,000	1,074,886	1,325,114
		給食費	4,600,000	4,043,297	556,703
		車両燃料費	1,260,000	626,749	633,251
		雑費	2,470,000	2,188,442	281,558
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	2,135,036,800	2,066,979,488	68,057,312
		教育活動収支差額	45,117,600	101,955,588	△ 56,837,988

		科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	620,000	106,113	513,887
		その他の受取利息・配当金	620,000	106,113	513,887
		その他の教育活動外収入	3,500,000	3,785,120	△ 285,120
		収益事業収入	3,500,000	3,785,120	△ 285,120
		教育活動外収入計	4,120,000	3,891,233	228,767
	事業活動支出の部	科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
		借入金等利息	43,927,000	38,537,136	5,389,864
		借入金利息	43,927,000	38,537,136	5,389,864
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	43,927,000	38,537,136	5,389,864
教育活動外収支差額			△ 39,807,000	△ 34,645,903	△ 5,161,097
経常収支差額			5,310,600	67,309,685	△ 61,999,085
特別収支	事業活動収入の部	科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	0	106,634,531	△ 106,634,531
		現物寄付	0	4,257,531	△ 4,257,531
		施設設備補助金	0	102,377,000	△ 102,377,000
		特別収入計	0	106,634,531	△ 106,634,531
	事業活動支出の部	科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
		資産処分差額	1,000,000	515,659	484,341
		建物除却差額	200,000	95,949	104,051
		教育研究用機器備品除却差額	200,000	112,644	87,356
		管理用機器備品除却差額	100,000	1	99,999
		図書除却差額	400,000	307,064	92,936
		車両除却差額	100,000	1	99,999
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	1,000,000	515,659	484,341
特別収支差額			△ 1,000,000	106,118,872	△ 107,118,872
[予備費]			(1,000,000) 14,000,000		14,000,000
基本金組入前当年度収支差額			18,310,600	173,428,557	△ 155,117,957
基本金組入額合計			△ 295,887,000	△ 155,212,131	△ 140,674,869
当年度収支差額			△ 277,576,400	18,216,426	△ 295,792,826
前年度繰越収支差額			△ 335,672,230	△ 335,672,230	0
基本金取崩額			0	0	0
翌年度繰越収支差額			△ 613,248,630	△ 317,455,804	△ 295,792,826

(参考)

事業活動収入計	2,184,274,400	2,279,460,840	△ 95,186,440
事業活動支出計	2,193,963,800	2,106,032,283	87,931,517

注　記　　予備費の使用内訳

科目	金額
資産処分差額	1,000,000
建物除却差額	200,000
教育研究用機器備品除却差額	200,000
管理用機器備品除却差額	100,000
図書除却差額	400,000
車両除却差額	100,000
合計	1,000,000

様式第6号その1（第11条関係）

（用紙　日本工業規格A4横型）

財産目録その他の最近における財産の状況を知ることができる書類

財　　産　　目　　録

（ 平成29年　3月31日現在）

Ⅰ 資産総額	金 11,209,679,725 円	
内　1 基本財産	金 7,633,125,475 円	
2 運用財産	金 3,576,554,250 円	
［ 収益事業用財産	金　85,496,049 円 ］	
Ⅱ 負債総額	金 2,997,955,498 円	
［ 収益事業用負債	金　372,742,022 円 ］	
Ⅲ 正味財産	金 8,211,724,227 円	

原本と相違ないことを証明します。
平成29年　5月26日
学校法人　湘南ふれあい学園
理事長　大屋敷芙志枝

財産目録

平成 29 年 3 月 31 日

（単位：千円）

区　分	金　額
資産額	
1　基本財産	7,633,125
土地	1,334,581
建物	5,644,463
構築物	172,800
教具・校具・備品	344,778
その他の基本財産	136,503
2　運用財産	3,576,554
現金預金	3,074,206
その他の運用財産	502,348
（3　収益事業財産　　）	85,496
資産総額	11,209,679
負債額	
1　固定負債	1,537,468
2　流動負債	1,460,487
（3　収益事業負債　　）	372,742
負債総額	2,997,955
正味財産	8,211,724

監　査　報　告　書

平成 29 年　5 月 23 日

学校法人　湘南ふれあい学園
　理事会　御中

学校法人　湘南ふれあい学園
監事　金 井　清 吉
監事　竹 俣　耕 一

私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 8 条第 2 項に基づいて同学園の平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び損益計算書）を含め、学校法人湘南ふれあい学園の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決算書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検証を行うなど必要と思われる監査手段を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上